

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0173200569		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム 和		
所在地	北海道士別市東1条2丁目440番地 (電話) 0165-22-1756		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】 (20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 14人 非常勤 2人 常勤換算 10.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000円(5～9月) 水道光熱費 19,000円(10～4月)	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 700 円			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	士別市立病院 間宮歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに商店街があり、住宅街の中で普通の生活が実感できる立地条件が整っており、生活しやすい建物構造となっている。ホーム全体も明るく、衛生管理が行き届き、安心感のある家庭的なホームとなっている。ホーム敷地内のパークゴルフ場や、犬を飼うなど、利用者の癒しや楽しみごと、活動意欲が湧くような配慮を行ない、利用者の自由な暮らしを積極的に支援している。運営法人および管理者、職員全員が、利用者本位のケアの実践に向け懸命に努力を重ねられている様子がみられる。サービスの向上に向け意欲を示されており、今後の活動が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である、柔軟な入浴時間帯の対応は職員の勤務体制の見直しを行ない対応できるよう改善されている。職員の異動報告についても、毎月の便りで報告されている。ほかの改善課題も職員全員で話し合いがもたれ、改善に向け取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の全員参加により、ケアサービスの振り返りを行ない、自己評価に取り組まれている。今回の検討により問題点を意識し、今後に向けて前向きな姿勢となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的な運営推進会議が開催され、運営状況や活動内容、訓練結果などが報告されている。また、地域の協力事項なども議題とし自治会長、地域包括センター職員、民生委員、家族の方々から意見や質問、協力依頼など幅広い協議がされ、ホーム運営の理解が深まりつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の普段の写真を取り入れた「和新聞」を3ヵ月毎発行し、利用者の日常の様子を伝えている。また、毎月利用者一人ひとりの暮らしの様子と健康状態を伝えている。日頃から家族の方々との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。家族の方々から意見や要望をいただいた際には、迅速に対応方法を協議し改善に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内や地域の行事、祭事、健康教室などに職員や利用者とともに積極的に参加している。昨年からは飼いだめた犬を通じ、地域の人や子供たちが遊びに来られるなど、地域との日常的連携が進行している。地域でホームの存在や役割が更に理解されるよう、「和新聞」を郵便局、銀行、包括センターなどに配布し広報に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域性を活かし、安心した生活を支えるためのホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がホームの入り口に明示され、朝の申し送り時に復唱している。運営者および管理者は、ミーティングや日々の申し送りなどを通して職員と共有し、理念を認識しながら利用者への支援に努めるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や祭事などに職員や利用者とともに積極的に参加している。ホームのお花見会に自治会や地域の方々をお招きし交流している。また、「和新聞」を郵便局や銀行、包括センターなどに配布し、ホームの存在や理解されるよう広報にも努めているが、近隣住民の方々気楽にホームに来訪するまでには至っていない。	○	地域でホームの存在や役割がさらに理解され、交流が盛んになるよう、積極的な働きかけを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者及び職員は、評価の重要性と意義を理解しており、職員全員が自己評価に参加しながら、作成と評価結果の問題点改善に意欲的に取り組んでおり、その取り組みの一つとして、柔軟な入浴時間帯の対応のため、職員の勤務体制の見直しを行なっている。		

士別市 グループホーム 和

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月に1回の開催があり、人居状況やケアサービスの内容、地域に根ざした運営など、話し合いがもたれており、ホームの行事計画や実施状況、研修の報告が行なわれ、地域住民・家族の方々から意見・提案が交わされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会や会議など積極的に参加し、ホームとしての係わりや相談などを行っているが、市担当者とともにサービスの質の向上に取り組む状態には至っていない。	○	市担当者とは、ホームの実態を共有し、実情に合った協働体制を作り上げるために、積極的な情報提供をするなどの関係作りを期待したい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回評価の指摘事項の職員の異動報告については、毎月の便りに利用者一人ひとりの暮らしの様子や健康状態とともに報告されている。また、3ヵ月毎の「和新聞」はカラーコピーを取り入れ利用者の写真などが掲載され、日頃の様子や行事予定などが報告されている。金銭出納簿は明細を明らかにし、家族の方々の了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の方々との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、意見や要望をいただいた際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介を利用者一人ひとりに合わせて、説明方法を工夫するなど、利用者の精神的負担の軽減に努めている。しかし、職員交代が多く、また、ゆとりあるケアについては人手不足が感じられる。	○	頻繁な職員交代は利用者、家族、職員の不安や不満を持ちやすい部分であるため、職員が定着するための具体的な取り組みや工夫をし、馴染みの職員が継続的に支える体制が望まれる。また利用者、家族、職員の不安緩和や事故防止の観点からも人員増員がなされるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の重要性を認識し、外部への研修参加費用などをホーム負担としている。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交代で参加し、職員間での共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者および管理者は、グループホーム協議会に加入し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら、情報収集や意見交換を行なっているが、近隣のグループホームとの直接的な交流は行なわれていない。	○	ホーム全体で話し合い、重要性を把握した上で、ほかのグループホームとの交流を図る機会を設け、サービスの質の向上に役立てる取り組みを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	時間的配慮も行ないながら、急ぐことなく利用者との馴染みの関係を構築し、利用者や家族の方々が安心して納得できるよう、適切なサービス開始の調整を行なっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、役割作りの支援が行なわれている。また、利用者に包丁を研いでもらったり、料理を教わったり、励まされたり、労わってもらったりなど、ともに支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを活用し、家族の方々から生活歴や環境、家族構成などの情報を収集するとともに、利用者の日々の言動や表情から思いや願いを読み取り、利用者本位に検討し、把握に努め共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が、毎日の記録を基にカンファレンスを行ない状況把握に係わるなかで、ニーズの把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。家族の方々の要望を取り入れ、職員が意見を出し合いながら、介護サービス計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行ない、利用者の状態に変化が生じた場合、利用者・家族の方々と話し合い、かかりつけ医とも相談しながら、現状に合った見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の方々の状況に応じた受診の支援、買物や外出、お寺参りなど、ホームで行なえるサービスを柔軟に行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や利用者のかかりつけ医とも連携を密にして、支援を行っており、職員が通院介助をした際は、受診結果などを記録し、家族に伝えている。看護師が常勤しており、利用者、家族、職員は健康面についても気軽に相談することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に関する指針を明示し、同意書が整備されている。家族の方々や利用者の意向も尊重しながら医療機関とも相談し、対応する予定であるが、職員間で具体的な方針などについて、話し合いを行なうまでには至っていない。	○	重度化や終末期に際してのあり方は、ホームを中心にできるだけ早い時期から利用者、家族、医師などで対応の確認が必要であり、ホームが対応しうる最大の支援の具体的方策について、早い時期の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら日々のケアを行なっている。利用者の写真などの使用は、利用者、家族の方々の了解が得られ、また、記録などの管理も十分に配慮されている。しかし、面会簿がホーム入口に置かれ、不特定多数の人が閲覧できる状態となっている。	○	ほかの人に名前や住所をみられないように、面会名簿の記入を工夫されることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切にその人らしい生活を送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じ席に着き、会話を誘導するなど和やかな食事の支援が行なわれている。食事の準備や後片付けなど、利用者の得意なこと・関心のあることを把握し、楽しみながら支援されている。利用者同士の助け合う姿や気を使いあう場面などがみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の評価で指摘された午前・就寝前の入浴について、職員の配置が改善され対応可能となり、利用者一人ひとりの習慣やペースで入浴ができるようになってきている。現在、午前の入浴の希望はあるが、就寝前の希望者はいない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や盛り付け、後片付けなど得意なことを活かした支援や、生活歴を活かした役割、カラオケ、レクリエーションなどの楽しみごとなど、利用者が日々の暮らしに張り合いや喜びを見出せるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、通院への付き添い、天候や利用者の希望に応じて身近な散歩やドライブ、また戸外行事などの外出支援を行なっている。また、ホーム敷地内にパークゴルフ場もあり、楽しまれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声かけや見守りが行なわれている。搜索訓練も行なわれ不測の事態に備えている。		

士別市 グループホーム 和

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回の防災訓練が実施され、また、利用者が参加しての夜間帯を想定した防災レクリエーションも実施し不測の事態に備えている。しかし、近隣の人々との協力体制や緊急災害に備えた物品の備蓄がされていない。	○	利用者の安全をより確実のものとするためにも、地域住民の方々の参加・協力を得ながらの避難訓練の実施や災害時に備えた物品の準備をするなどの取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量、食事量など個別記録され、職員が情報を共有している。また、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法も工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節を感じることの出来る飾り付けが行なわれ、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。こまめな清掃に加え、脱臭効果のある造花や月1回の超音波噴霧器を使用し、各居室の防臭・抗菌がされ清潔で快適な空間に努めている。温度・湿度にも配慮され、音や光も適宜調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室にトイレ、流し台、冷蔵庫、電気調理器が設置されている。利用者が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、利用者によっては、仏壇や植物を持ち込み、家庭の延長線上の雰囲気の中で、安心して暮らせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。